

金融市場NOW

経常黒字増加 2年ぶり

米中貿易摩擦による貿易収支の落ち込みをサービス収支が補う

- 2年ぶりに経常黒字額が前年比で増加となる。サービス収支の黒字化が貢献。
- かつては一定の相関がみられた経常黒字と為替相場も、近年では相関が見えにくい。
- 直近の為替相場は米中貿易協議の不透明感や新型肺炎の感染拡大懸念などを材料に円高米ドル安基調。

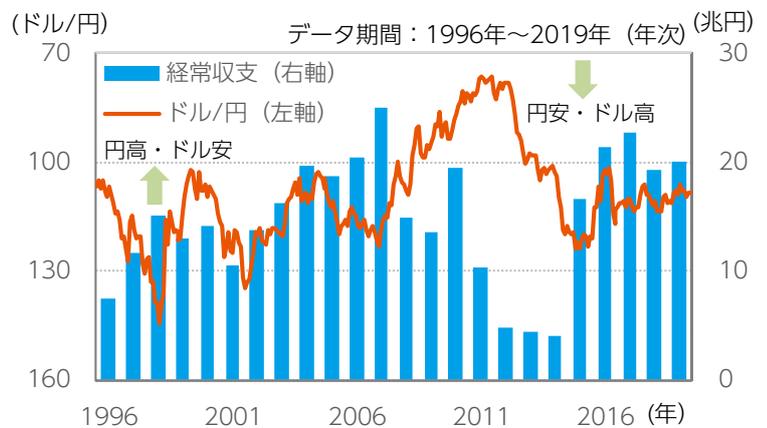
財務省が2月10日に発表した2019年の国際収支統計（速報）によると、日本が貿易や海外への投資などでどれだけ稼いだかを示す経常収支の黒字が20兆597億円となりました。黒字が前年比で増加するのは2年ぶりとなっています（図表1）。内訳を見ると、貿易収支の黒字が減少した一方で、輸送や旅行などを含むサービス収支の黒字が大きく増加したことが経常黒字の拡大につながりました。なお、サービス収支はデータを遡ることができる1996年以降で過去最高となっており、暦年ベースでは初めて黒字（1,758億円）となりました（図表2）。

サービス収支の拡大の主因は、旅行収支の増加です。2019年の旅行収支は、前年比プラス9.1%の2兆6,350億円で過去最大となりました。近年の訪日客数の増加にともなう、旺盛なインバウンド消費（訪日外客による日本国内における消費額）が、旅行収支の拡大に大きく貢献したものとみられます。

一方、貿易収支の黒字は前年比マイナス53.8%の5,536億円となりました。米中貿易摩擦による世界的な景気減速から、輸入の減少（前年比マイナス5.6%）以上に輸出の減少（同マイナス6.3%）が大きかったことが、貿易収支のマイナスをもたらしました。国別で見ると、中国、韓国、香港などのアジア諸国・地域向けの輸出額の落ち込みが目立っています。

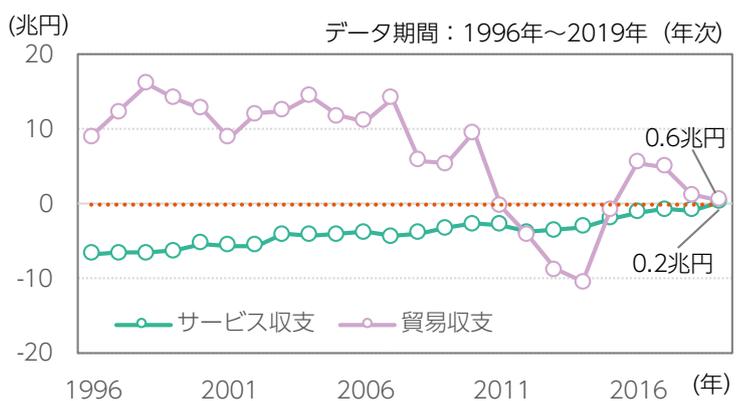
かつては経常収支の支えは、貿易収支（輸出－輸入）が中心となっていました。『経常収支が黒字なら円高ドル安になる』が定説と言われ、経常黒字と為替に一定の相関がみられました。

図表1：近年、経常収支と為替の相関が見えにくい



※経常収支額とドル/円の推移 (左軸は逆目盛り)
為替のデータは1996年1月末～2019年12月末 (月次)

図表2：サービス収支は年々増加傾向にある



※サービス収支と貿易収支の推移

しかし近年では、経常収支と為替の相関が見えにくくなっています。直近の為替相場は、米中貿易協議の不透明感が継続していたことや、中国で発生した新型肺炎の感染拡大懸念等を受けた投資家のリスク回避姿勢の高まりなどから、相対的に安全資産とされる円の買いが優勢で円高ドル安が続いています。当面は、マーケットを取り巻くこれらのリスク要因が為替相場に影響を与えそうです。

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>